この学校では、こんな学びが始まる

農と食の未来を動かすアグリ・イノベーション拠点

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

滋賀県立長浜農業高等学校

全日制／農業学科

○ データとAI 分析を活用した就農を目指す人材と農業教員を目指す人材の育成拠点
○ 小中学生や地域住民、近隣農家等に開かれた農と食の情報発信拠点

この改革が必要な背景

○ 滋賀県での新規就農者数は平成27年度以降年間約100名前後で推移してきていたものの、令和６年度は80名を下回っており、農業の担い手の育成・確保が急務となっている。
○ 農業人材の確保に向けた取組の一つとして、農業法人に就職するルートを強化するため、県内農業高校と農業大学校との連携を強化し、人材育成に取り組むことが必要。

事業概要（学びの変化）

①学科再編
現在の農業科、食品科、園芸科を農業の未来を担う人材育成に向けて再編する。
→ スマート農業科、食農製造科、園芸創造科へ再編（名称は仮称）

②農家・農業関連企業・自治体等と協働したキャリア教育の実践
○デュアルシステム（農家等への派遣実習）
○One Day Farming Program（仮称）
○アントレプレナーシップ教育
（６次産業化、農業ビジネスの実践）

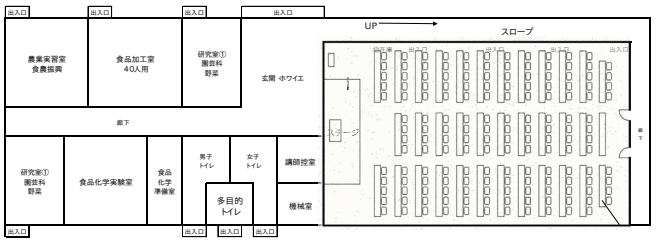
③農業高校と農業大学校の学びを接続する学習プログラムやカリキュラムの構築
→ 両校の学びを接続する学習プログラムの構築
農業大学校の授業をオンライン配信
畜産分野における協働した学びの推進
両校における共同研究・教材開発
両校間の人事交流制度の構築に向けた検討

④民間の経営実務経験を持つ「地域連携・共創コーディネーター」の招聘
→ 産業界、企業、大学等との連携調整を主導する人材を配置する。

施設・設備の充実

【スマート牛舎の整備】
繁殖分娩育成牛舎の改築、肥育牛舎を改修し、自動給餌器、養牛カメラの設置による畜産施設を高度化

【農業ビジネス・６次産業化スタジオの整備】
体験講座ルーム、食品加工室、階段型講義室の整備し、農と食の情報発信拠点へ



【スマート温室の整備】
IoTセンサーに基づく環境制御や収集したデータ分析に伴う農業の実践

【視聴覚室の改修】
オンライン配信機器・設備等の導入、対話型学習やグループ学習が可能な空間へ整備し、学びの改善と教科横断的な取組を推進

【農業技術センターの改修】
食品加工施設としてゾーニングを行い、HACCPに基づいた食品衛生・食品安全教育を高度化

＜生徒の１日の流れ（例）＞

11:00～ ＜畜産圃場＞　科目：総合実習
IoTセンサー(体温センサーを用いた母牛の遠隔監視通報システム)を設置。データをクラウド上で管理し、PCやスマートフォンでの監視を進める。

16:00～ ＜畜産圃場＞
科目：時間外総合実習
肥育牛舎を巡回し、自動給餌機の稼働状況を確認し、タンクに餌を補充する。

18:00～ ＜自宅＞
放課後自主活動
スマートフォンでIoTセンサーの体温変化を確認する。

高校生の未来の姿（指標の例）

○ 農学系大学への進学者数（R7：2.8% → R13：6%）
○ 農畜産業（第一次産業）への就業者数（R7：0.9% → R13：4%）
○ 協力校と連携した取組数と外部からの参加者数（R7：0件0人→R13：10校40人）

他校への普及方法

○ オンライン配信する学習プログラムを確立し、協力校の生徒がオンラインで受講する。
○ 農業大学校の学生や協力校の生徒がスマート牛舎で次世代の畜産業界の取組を体験する。
○ 県内農業教員を対象とした公開授業・実践共有会・研修会「アグリティーチャーズ・フォーラム」を定期的に開催して、協力校の学びを広げる。